

## JR北海道・アクションプランの報告 引き続き利用促進の取り組みを

6月7日、北海道鉄道本部はJR北海道（地域交通改革部）から令和2年度第4四半期（2021年1～3月）の「アクションプラン」取り組み報告を受けました。地域の皆さんと一体となって線区の活性化に取り組み「SL冬の湿原号」の運行に合わせて地域の皆さんによる歓迎のおもてなしや地域内を巡るバスの運行により鉄道の利用促進に取り組みされたこと、石北線・宗谷線などの駅の廃止と関係自治体による駅管理、富良野線・根室線などでは利用機会創出のためにSNSを活用したPRの取り組みなど、地域の皆さんの理解と協力で深く感謝の意が示されました。2021年度以降について新型コロナウイルス感染症の拡大によりアクションプランの取り組みに引き続き影響が想定されますが、感染防止に最大限留意しながら取り組むとともに、アクションプランの検証をおこなう時には新型コロナウイルスが及ぼした影響を踏まえた検証となるよう進めていきたいと述べられました。組合からは「地域住民をはじめ自治体の皆さんとJRが力を合わせて利用促進につながる取り組みを引き続き頑張ってください」「沿線住民の皆さんにJRが北の鉄道を守るために奮闘している姿が伝わるよう応援していきたい」と激励し意見交換を終了しました。

### 北海道鉄道本部「カレイ釣り交流会」 感染防止対策をとり楽しい1日に

好天に恵まれた6月8日、北海道鉄道本部の恒例行事のひとつ「カレイ釣り交流会」が噴火湾（伊達市黄金）の洋上でおこなわれ6人が参加しました。5月10日に予定していた小樽沖での「釣り交流会」は悪天候で中止となりましたが、この日は新型コロナウイルスの感染防止のため2艘の船を準備して、乗船人数を制限してソーシャルディスタンスを保ちながら腕を競いました。道内でも地域ごとに感染状況が異なるため参加をあきらめた人もいましたが、参加した6人は波も風もない「絶好の釣り日和」となり楽しい1日となりました。



各部門の優勝は、総重量賞が11.5kgを釣り上げた苫小牧支部の竹田さん（写真左）、身長賞は48.0cmの子持ち真ガレイを釣った追分支部の鷺沢さん（写真右）、珍魚賞は「はっかく」を釣った竹田さんでした。コロナ禍のもと「罹らない・うつさない」ために感染予防に徹して生活を制限しながら毎日を送っている組合員には、ほんのひと時でしたが気晴らしとなった交流会でした。